



患者さんの生活を見守るなかで防いだ「オレオレ詐欺」

「オレオレ詐欺」を未然に防いだ薬剤師がいる——。京都市中京区にあるゆう薬局の管理薬剤師Cさんにお聞きした話です。

同じ薬局の先輩薬剤師Dさんが、近所の郵便局に行ったときのこと。ゆう薬局のお客様である80代の鈴木さん（仮）が窓口で血相を変えて200万円もの大金を引き出すと、郵便局員に相談しているのです。

Dさんは、鈴木さんは認知症の薬が処方されていると覚えていました。「200万円とは、オレオレ詐欺かもしれない」。Dさんは迷います。「でも、ここは郵便局。薬局以外の場で鈴木さんに声をかけていいものか」しかし郵便局員は預金を下ろす準備を着々と進めています。一刻を争うと判断し、Dさんは勇気を出して声をかけました。

「鈴木さん、どうかされましたか？」。

すると鈴木さんは「息子が会社で不祥事を起こした。すぐに振り込まない」と答えるではありませんか！ オレオレ詐欺の典型です。Dさんは必死で、鈴木さんにわからないように郵便局員に「認知症です」と

ジェスチャーで伝えると、郵便局員も事情

を飲み込みました。郵便局員の勧めにした
がい鈴木さんが家族に連絡したところ、そ
の場で事実が判明。事なきを得たそうです。

管理薬剤師のCさんは、先輩薬剤師Dさんのこのエピソードから、普段のやりとりを通じて患者さんの症状と生活を把握する大切さを実感。患者さんに何かあったときに自分も一歩踏み込んで手助けできる存在でありたいと強く思ったそうです。

以来、患者さん一人ひとりに合った対応を心がけるCさん。飲み忘れが心配な方には朝昼晩で袋の色分けをしたり、「薬をもたらってない」と言い張る方には、一緒に探したり。時には認知症の方の家にまで同行し床に落ちた薬を発見することもあります。

保険薬局の仕事は薬をお渡しするだけではありません。日々のやりとりを通じて患者さんの状態を把握し、必要とあれば積極的に支援する。そこには「年を重ねても健康的で、安心して暮らしてほしい」という、**薬局の薬剤師の熱い願い**があるのです。



ゆう薬局
ハンケイ500m物語

vol.
03

なんでも相談できる「ゆう薬局」には、お客さまとの物語があります。

豆知識

認知症と
薬局・薬剤師 part.2

薬の効果・副作用は勿論、
認知機能の維持に良い生
活習慣や地域の活動など
を薬局・薬剤師も情報提
供しています。
是非ご相談ください。

ゆう薬局グループ本部・
宇野薬局

☎075-771-1690(本部)
📍京都市左京区浄土寺下
馬場町106

もよりバス停は「錦林車庫前」

KBSラジオ

“サウンド版ハンケイ500m”
の番組内にて、ゆう薬局の
ラジオドラマを放送中！

每週土曜17時～18時！